

特集
BEYOND
300th
菰野ばんこ

300周年を迎えた萬古焼

陶

祖生誕300周年を2018年に迎えた萬古焼。三重県北部を中心に地場産品として古くから生産され、菰野町もその生産地のひとつとして技術を受け継いでいます。萬古焼に携わる職人たちは、300年の歴史の中でそれぞれの窯元で創意工夫を行い、蓄積された技術を昇華させ、そして今日の萬古焼を焼き上げています。今月号の特集では、現代の萬古焼が形作られるまでの系譜と菰野の地で意欲的に作陶活動を行う7人の窯元たちの姿をお伝えします。



古萬古 色絵山水文仙蓋瓶

古萬古 色絵山水文雪輪鉢



古萬古 青釉色絵山水文獅子鈕銚子



古萬古 色絵龍文花生



古萬古 色絵金彩山水文盃

有節萬古 青釉丸文猪口



有節萬古 色絵菊牡丹文福面形皿

有節萬古 色絵四季花文平向付



有節萬古から四日市萬古へ

沼 波弄山の死後、桑名の古物商、森有節と弟の千秋が萬古焼を再興するため、萬古発祥の地である朝日町小向で窯を開きました。有節は神社の大工仕事をこなすほど木工技術に長け器用で、弟の千秋も兄に劣らぬ才能の持ち主であったといわれています。2人はその才能を生かし、当初は沼波弄山の作風を再現したものを多く作陶していましたが、次第に時代を先取りするような独自の新技法をいくつも生み出し、人気を集めるようになりました。有節独自の技法とこれまでにない独自の作品から、有節の作品は「有節萬古」と呼ばれるようになりました。



有節萬古 色絵雨龍桃文盃洗

陶祖 沼波弄山の功績

萬 古焼は、江戸時代中期に桑名で陶器専属の問屋を営んでいた沼波弄山が朝日町小向に窯を開いたことが始まりといわれています。弄山の作品には沼波家の屋号である萬古屋の「萬古」あるいは「萬古不易」の印を押したことから萬古焼と呼ばれるようになりました。弄山が作る焼き物は好評を博し、後に將軍家からの注文も受けるほど評価が高くなりました。1751年には江戸の向島小梅の地にも窯を設け、江戸でも萬古焼は評判を得ました。しかし、1777年に弄山が亡くなると、萬古焼は徐々に衰退の一途をたどるようになりました。現在では、この時代の作品を弄山以降に再興された萬古焼に対して「古萬古」と呼んでいます。

を興しました。これが「四日市萬古」の始まりです。四日市萬古は四日市市垂坂山の陶土を使い、木型、土型による成形の容易さから多く流通させることができ、四日市港が整備され交通網が発展すると、需要が増大して全国へ広がりました。また、海外向けの製品を製造し、販路を輸出へも広げていきました。こうして世の中に萬古焼が大きく知られることに繋がりました。

受け継がれる
300年の技術と伝統
そして現代の萬古焼へ



有節萬古 青釉三人形蓋置



菰山焼 菰野焼菓子鉢

※掲載している「古萬古」「有節萬古」は全てパラミタミュージアム所蔵のものです。

萬古焼の歴史

1718年	享保3年	沼波弄山が桑名に生まれる
1736年	元文年間	沼波弄山が朝日町小向村に開窯
1740年	萬古焼の始まり	
1751年	宝暦元年	沼波弄山が江戸の向島小梅で江戸萬古を開窯
1832年	天保3年	森有節と千秋が小向村に開窯
1852年	嘉永5年	有節萬古
1853年	嘉永6年	土井吉蔵が東菰野村で開窯
1870年	明治3年	山中忠左衛門が四日市末永村に開窯
1873年	明治6年	四日市萬古の始まり
1884年	明治17年	四日市と東京間に蒸気船の航路が開通
1890年	明治23年	四日市港が開港し、萬古焼の輸出が広がる
1918年頃	大正7年頃	関西鉄道が開通し萬古焼の販路が拡大する
1945年	昭和20年	機械ろくろの導入
1964年	昭和39年	菰野町内に製陶所が創業
2006年	平成18年	自動成形機の導入
2018年	平成30年	第一回菰野ばんこ焼窯出市の開催
		BANKO 300thプロジェクト始動
		陶祖生誕300周年

菰山焼と菰野萬古の発展

四 日市、桑名などそれぞれの地で発展を遂げた萬古焼は菰野町へも波及しました。森有節に陶法を学んだ菰野町の土井吉造は菰野藩主から「菰山」の銘を賜り、1852年から東菰野村で「菰山焼」と称される焼き物の作陶を始めました。菰山焼は茶器や花器などが多く、「菰山」の丸枠印が捺されています。吉造が1899年に亡くなるまで、菰山焼は衰退し、遺されている菰山焼の作品は大変貴重なものとなっています。

菰山焼の衰退以降、1945年頃から町内で製陶所が開窯され始めました。土地が平坦で広く、燃料となる薪が付近で豊富に得られ交通の便も優れていたことから竹成区を中心に製陶所ができました。その後、永井区、下村区、川北区、宿野区などで萬古焼の生産が行われました。1965年頃には町内に10箇所以上の製陶所が存在し、四日市市の萬古工場群にも匹敵する規模となっていました。